

私が繁殖に関して感じてゐる事を書きます。

先ず最初に、私は、極限られた範囲の犬しか知りませんので、その範囲内で感ずる所を以下に述べます事を御承知下さい。

犬と暮している人は、大抵それらの子犬を見たいと思ふようです。それは、今いる犬の欠点をカバーし、長所をより伸ばした理想の犬を、彼らにオーバーラップさせて見るからでしょう。父犬より、又母犬より色々な意味で良い犬を目差して繁殖するのですが、残念ながら全部が全部良い結果を得ているとは言えないのが現状でしょう。

目に見える体形については、一胎の内でもより良い犬が出れば見て分ります。しかし、一つ警告しなければならぬ事として見た目に表れない眞性については、無計画に、又不勉強に、交配を続けて行くと、我々の愛するレトリバーさえも他人に危害を加える恐ろしい犬になつてしまふ可能性を持つてゐると言う事です。

フィールドトライアルの犬達とショーの犬達を区別して考へる事は、目的が違ふ以上當然の事です。そして、其達を認識しなければなりません。『盲導犬になる程おとなしい犬種』と聞いていたのに家のは、とてもやんちゃで飼ひ切れない。』と云つて犬を手離した方は、フィールドトライアル犬を家の中で飼おうとしていました。ブリーダーは、犬を求める人との間で、どんな目的でどんな性格の犬を求めているのかをよく話合ふ必要があります。其れにも、ブリーダーは、自分の犬をよく知り、そして認たくない欠点をも知るべきなのです。其上で交配相手を決めるべきです。外産犬だから、チャピオンだからと言つただけで決める様な事はすべきではありません。勿論、外産犬には外産犬の良さ、チャピオンにはチャピオンの良さがあつた事は否定しません。

繁殖で、雄、雌どちらが大きな影響を持つかが、よく論議されてはいますが、答はどちらも同じ、と考へます。雄の成熟度、雌のそれ。また季節、其他様々な要素が複雑にからみあつて、其回の一胎が出る訳で、同じ相手と交配しても、同じ胎は二度と出て来ません。その様な例を何度も見ました。夫々、顔や体の大きさはよく似てゐるのですが、性格が、かなり違ふのです。又、或古雌に、一回目と二回目とで異なる雄犬を使って繁殖した時、全く違ふタイプの子犬を出しました。此の場合、雄の特長をよく出す犬と言へます。

雄でも、どんな雄と交配しても直に『あの犬の子供だ。』と分る様な子を出す犬もいれば、出た子供が、夫々違うタイプ・・・雄の影響力が強く出される・・・雄もいます。それは、何才の雄と何才の雌とを何時交配した時良い子供が出た、と言うべきで、単にあの雄は良いか、あの雌は良いかと言うべきではないと思います。ただ、遺伝的な影響は、其通り出ます。欠歯を持った犬を見ますと、まず、両親犬のどちらかに欠歯を持った犬がいる筈です。H・D)とツブ、ディスプレイマー)は、間違ひなく遺伝すると考えて良いでしょう。ですから、排除すべき点を持った犬は、繁殖に使うべきではなく、雄も雌も繁殖しようと思つ時は、何等かの方法で、H・D)の確認をした方が良いと思つます。

私が考える良い繁殖とは、自由を持って、健康な良い状態の犬を、良い環境で交配し、出来た子犬をよく理解してくれる飼い主の元に届る事です。繁殖すべきトリーバーが、他人を襲う恐ろしい犬になり下らない為はどうすれば良いかを考へるべきかは何かならぬ事では。